なでしこリーグ2部(道内開催分)・道女子リーグ 開幕!

■ なでしこリーグ2部(道内開催分)

2023年4月23日 (日)11:00

■ 北海道女子リーグ

2023年5月 6日 (土)10:00

5R ~一歩一歩着実に~

今シーズンも、アクティブ女子審判員が担当します。 若手の審判員も、なでしこリーグ2部や道女子リーグのデビューしました!

■ 担当審判員のコメント

稲葉 里美(女子1級審判員)

道リーグが開幕し、運営の方々や選手、指導者、道リーグに関わる人達に久しぶりに会えたことも嬉しく思いますし、ひたむききなプレーが見れたことも凄く刺激を受けました。5月から9月までの期間ではありますが、北海道の女子サッカーを盛り上げていくため、審判員としてより白熱したゲームを引き出せるよう努力していけたらと思います。

長浜 杏名(2級審判員)

今年も無事に開幕戦を迎えられたことに安堵しています。道リーグデビューを果たす緊張している仲間もいて私も気持ちを引き締めて試合に臨むことができました。まだまだシーズンは始まったばかりですが、選手も審判も怪我なく自分のベストを出し尽くすことのできるシーズンになることを心から願っています。

土屋 花(2級審判員)

今回初めて女子の道リーグの試合を経験しました。コロナウイルスへの対応も緩和しており、観客の方々がいる中での試合ということもあり、とても良い緊張感を持ちながら行うことができました。沢山の先輩審判員のみなさんと同じピッチ上に立てたことをとても誇りに感じることが出来ました。今回の試合から多くの学びを得ることができたので自身のレフェリー像をより明確にし、これからの試合に活かせていければと思います。

秋山 心音(2級審判員)

普段とは全く違う今まで味わったことの無い緊張感の中での審判は、とても貴重な経験でした。始めは緊張で思うように身体が動かず戸惑いましたが、今自分に出来るベストなパフォーマンスをしようと心に決め、取り組むことが出来ました。試合が始まると、足も心も休める余裕が無いほどの運動量で、過去に経験した副審で一番走った試合だったと思います。そんな中でも、主審の女子1級稲葉さんをはじめとする審判団の皆様や、その他多くの方々にサポートしていただき、無事務めあげることができました。今後レベルの高い試合を判定していく中で、審判員として今まで以上に多くのことを求められてきます。しかし、そこで屈することなく今までと変わらず、"選手のため"という意識を持ち続け、サッカーを楽しみながら審判活動に取り組んでいきたいと思います。





阿部恵理子さん、2級審判インストラクター合格!

■ 阿部恵理子氏のコメント



札幌地区サッカー協会の阿部恵理子です。

私が審判資格を取得してから現在まで、多くの方々のご協力とご指導のもと、審判活動を継続する事ができました。各年代のリーグや各種大会が増えても、コロナ禍の影響もあり女子審判員の増加が望めず、普及や育成に関わる事の必要性を実感しました。審判員として、それぞれ目標は違っても、チームで活動する楽しさ、仲間の大切さを伝えていけるよう努力して参ります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

都道府県審判トレセンユース3級審判員研修会に女子ユース審判員も参加!

■事 棠 名 :2022年度(公財)北海道サッカー協会 都道府県審判トレセン ユース3級審判員研修会②

■日 時:令和5年3月24日(金)~26日(日)

■場 所 : 伊達市まなびの里サッカー場 ホテルローヤル

■講師 : 平石 暁史 氏(北海道サッカー協会 審判委員会育成部)

籾山 智哉 氏(道央ブロックレフェリーアカデミーインストラクター)

大石かおり (北海道サッカー協会 審判委員会女子部)

■講師補助 : 鈴木 敏晴 氏(室蘭地区サッカー協会 審判委員会委員長)

長浜 杏名 氏(空知地区サッカー協会 審判委員会女子部長)

■オブザーバー:山崎 裕彦 氏(日本サッカー協会審判委員会 北海道地域担当RDO)

: 山下 浩司 氏(函館地区サッカー協会 客判委員会委員長)

三平宮喜雄 氏(室蘭地区サッカー協会審判委員会副委員長)

■参加者 9名(うち女子審判員2名)

秋山 心音(2級審判員 オホーツク地区)

空知地区ユース3級審判員

■参加者のコメント

秋山 心音(2級審判員)

道協会主催のユース研修会への参加は今回が初めてでした。そして私にとってはユース審判員として最後の活動でした。普段は大人の審判員の方々にサポートして頂きながらだったところを、今回はユース審判員のみで試合を作り上げていくという点では、いつも以上に強い責任感を感じました。また試合内外関係なく、今回出会えた素敵なユース審判員の仲間たちと過ごすことのできたこの3日間はとても充実したものでした。そして初めて女子の後輩レフェリーが研修会に参加してきてくれたことで、自分自身とても安心して楽しく活動することができました。今回の研修会を通して出会えた仲間や今後新たに出会い、共に活動していく方々を大切にし、審判活動に励んでいきたいと思います。この度は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

空知地区ユース3級審判員

今回初めての研修で緊張しましたが周りの方々のおかげでいろいろな事を経験し、学べた事が沢山ありました。女子審判員の秋山さんとはグループが違い、試合を見る機会があまりなかったのですが、それ以外の時に気さくに話しかけて下さり緊張が和らぎました。研修に行く前に決めた課題は、ボールに背を向けて走らないことや他のユース審判員の方たちとのコミュニケーションなどでした。当日には副審をやる際にラインキープを出来ていないことが多く見られると指摘されたのと自信を持ってフラッグを上げるといいと言われたり、アディショナルタイムについての詳しい知識についても教えて頂き、とても勉強になりました。これからもまだまだ力不足な所や知識不足な所もあるので、日々トレーニングを頑張っていきたいです。3日間付き添って頂いたインストラクターのみなさんやこのような場を設けて頂いたことに感謝し、今後に生かせるよう頑張っていきたいです。ありがとうございました。



全国研修報告

■大 会 名 : JFA第34会全日本0-30女子サッカー大会

■場 所:静岡県 時之栖スポーツセンター裾野グラウンド

■日 に ち : 2023年3月16日(木)~19日(日)

■参加者:秋山心音(2級審判員)

3/17 リトルスターズ 対 FC観昴 Lifelong

アセッサー:浅井昭子氏

自己分析

今シーズン初のサッカーだったため、まずはオフサイドの監視の感覚を取り戻すことを意識して取り組んだ。しかしオフシーズンのブランクから自分自身のオフサイド判定に自信を持つことが出来ず、ベンチの声を気にしすぎてしまった。今後は、北海道という土地柄を言い訳にせず、オフシーズンであっても自分なりにサッカーの感覚を保てるよう取り組んでいきたい。

アセッサーから オフサイドの判定に関しては、真横から見ることの出来る副審が一番見えているの で自信を持つこと。

3/17 山口選抜 対 リトルスターズ

主審

アセッサー: 西野照美氏

自己分析

前半、オフサイドの部分で副審のフラッグアップがあったが、よく目を合わせ 2人目の飛び出しも見えていたためキャンセルした。しかし選手は副審の旗の音で足を止めてしまった上、オフサイドを要求する声も多少上がった。笛が鳴るまでプレーを続けるよう主審の自分が声で促しても良かったのではと感じた場面であった。以降の同じような場面ではプレーを続けるよう声をかけ、改善を図ることが出来た。

後半、意図的ではなくアクシデント的なつまずかせるファウルが起こり、ファウルした選手が転倒した 選手に謝罪する選手同士のコミュニケーションの場面があった。多少のコミュニケーションなら、と思い 次の展開を考え自分のポジションについたが、クイックの意思がないと分かった時点で一度止めるべきだっ た。

アセッサーから

全体を通して非常に良く走っていた。ファウル後の選手同士のコミュニケーションを見て、クイックの 意志がないのであれば、自分のポジショニング確保の意味でも一度試合を止めることも必要であった。

3/18 Legame 🛪 SOCIOS. FC. VENGA

副審

アセッサー:浅井昭子氏

自己分析

この日は雨天だったためピッチの状況が非常に悪かった。後半9分、両チームの選手がボールに対してチャレンジしたところ足を滑らせ転倒した拍子にLegameの選手が後頭部を地面に強く打ち付け、会話もできない状況だった。主審の素早い対応により役員・担架をすぐに入れた。その際に4thに代わってベンチや全体の監視に努めた。ドクターの判断により救急車で搬送されることになった。主審が試合を一度中断したが、その他の審判には伝わっておらず、時間管理の面で全員で共有することが出来なかった。再開方法・場所はしっかりとコミュニケーションを取り、間違いなく行うことが出来た。

アセッサーから

試合を中断した際の時間管理の認識が間違っていた。結果的にタイムラグは無かったが、もう一度全員で確認する必要がある。

3/18 おいでやす京都 対 シュピーニ大阪

主審

アセッサー:浅井昭子氏

自己分析

いずれの判定に対してもリアクションの多い両チームであったが、オフサイド判定に対して強く副審にアピールした選手がいた。納得がいってないだけだと捉え、注意は必要ないとその場では判断した。しかし、その直後のオフサイドを取った際に、選手やベンチから多くの声が上がりその場の状況を考え、一度副審の元へ確認しに行った。判定は戻りオフサイドと確認し、状況を全体に伝えその場を収めた。しかし振り返ってみると1つ前の場面でリアクションがあった選手に対して対応することで、選手のメンタルコントロールができたのではないかと感じた。また状況を伝えた際に、伝える対象・伝え方がベストだったのか自分の中での中で疑問が残った。様々な方の意見を聞くことで引き出しを増やしていきたい。ベンチ側レフェリーサイドのタッチジャッジに自信を持てなかった。リスクはあるが、説得力のあるポジショニングをとるためにはタッチラインを出たポジショニングにもチャレンジしてみたいと思った。

アセッサーから

球際を競い合った後のちょっとしたファウルを見えているのにあえて取らないのならば、アドバンテージまでいかなくでも続けて欲しいという意思を声に出して伝える必要があった。また、そのようにすることでレフェリーは見ているよという安心感にも繋がる。後半、説得力のあるポジショニングをとるため、自らチャレンジしていたことは非常に良かった。多くの事に挑戦し、自分に合ったレフェリングに努めてほしい。

アセッサー:山岸佐知子氏

自己分析

この試合は、選手との信頼関係を築くことを意識して取り組んだ。大会最終日だったため、選手の疲労も考え負傷者には特に気を配った。ノーファウルの接触やオフサイド判定に関しても、2日間の反省を活かし声でプレーを続けさせることが出来た。早いスピード感が不必要な場面でトップスピードで走ってしまったため、もし何かが起きた時に正しく見ることが出来なかったのではと感じた。フォーカスして見たい事象はスピードを落として見ることの出来るよう、ポジションの先取りに努めていきたい。前半アシスタントサイドのファウルの監視を副審に任せきりになってしまっていたため、後半は意識的に距離や角度を気にかけた。

アセッサーから

ペナルティーエリア付近で何か起こりそうなときに争点に対しての入り方、動き出し方を変えるだけでもっと説得力のあるポジションを取ることが出来る。負傷者によく気が付き、声をかけるなど選手を思い続ける心は続けていくべき。ただ気にかける反面、プレーの監視を怠らないよう気を付ける。ピッチの中央付近で自分に向かってくる選手をバックステップで逃げるのではなく、体を45度回転させる方が次のプレーに繋がりやすい。

3/19 ENSOWA KUMAMOTO 対 FCマミーズ

第4審

アセッサー: 西野佐知子氏

自己分析

試合前やハーフタイムに担架要員の方々とコミュニケーションを取ることで、担架が必要な場面で迅速に対応して頂くことが出来た。ベンチへ軽い注意が必要な場面でも "お願い" という形で言葉遣いや伝え方を気にすることで、ベンチと良い関係性を築くことが出来た。自由な交代で複数人交代があっても、今までの4thの経験を活かし落ち着いて取り組み、選手に対する些細な声掛けで選手とのコミュニケーションも図ることが出来た。

アセッサーから

ベンチや試合だけでなく、担架要員にも気を配れていて非常に良かった。このようなコミュニケーションがあったことで、担架要員に入って下さった静岡県の方々も気持ちを切らさず対応してくれた。今後も続けて欲しい。

研修を通して

今回は、初めて全国研修・大会に参加させて頂きました。まずはこの研修会に北海道代表として私を推薦していただいたことを深く感謝いたします。また、北海道でサッカーをするにはまだまだ難しい3月のこの時期にサッカーができる環境であることを非常に嬉しく感じると共に、新型コロナウイルス感染症への不安が完全には消えていない状況で安全に大会を運営して下さった静岡県サッカー協会の皆様にも感謝申し上げます。

今大会は0-30の大会ということもあり、多くのチームは「エンジョイ」の雰囲気だった印象です。しか し各地区の予選を勝ち抜いてきたチームのため、ボールタッチや走力など全てのスキルにおいて高いレベ ルの大会でした。

今回の研修会での目標は、INS 山岸氏による "try and error"という言葉のもと、挑戦と失敗を繰り返して成長していこうというものでした。特に、「負傷者対応(頭部)・協力・争点に対しての角度」という部分について取り組みました。初めての全国という舞台で不安に感じることは多々ありましたが、このようなチャンスをプラスに捉え、多くのことにチャレンジし吸収することが出来ました。

普段は中々出会うことの出来ない同世代の女子審判員と、全国研修という場を通じて共に活動できたことや、経験の浅い女子審判員ならではの悩みを共有し合うことで、今後の活動への不安を減らすことが出来ました。沢山の素敵な仲間が出来たこと、非常に嬉しく感じます。

今回の経験を通じて自分の新たな強みや課題に気が付くことが出来ました。今後の活動を通して更なるスキルアップに努めていきたいと思います。改めて今回の研修会に私が参加させていただくにあたって、 ご尽力いただいたすべての方々にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



